

教会とコンピューター

No.33 February 1998
発行 コンピューター聖書研究同好会

パソコンについて知りたい方
パソコンを教会で使ってみたい方
パソコンをもっと活用したい方
パソコンで聖書の研究をしたい方

本誌はあなたのお役に立ちます

一段落したパソコン普及活動

去る2月9日～11日、軽井沢恵みシャレー(いのちのこば社)において、第3回のパソコンセミナーが行われました。奇しくも、3年前の3月、この同じ場所で能城師とプログラマーの堀井氏と小生の三人が集い、聖書ソフトの開発や、これからの日本のキリスト教会のパソコン普及などについて、話し合い、C B E C (コンピュータ聖書研究同好会)の発足と、「J - ばいぶる 1st」の開発、そして「教会とコンピューター」誌の発刊を決定したのでした。セミナーの合間に、この3年間の活動を振り返り、忙しかったけれど、最初に思い描いた夢が、予想以上のペースで実現できたことを喜びと共に、主の導きが豊かであったことを心から確信し、御名を崇めました。

三年前、パソコンの聖書研究ソフトを作ろう、と決めたとき、一番心配だったのは、こんなソフトを作っても、一体何人の人が使ってくれるだろうか、という事でした。当時まだパソコンは高額で、使い勝手も悪く、オタクの遊び道具の域を脱していませんでした。しかし、幸いなことに、その年の暮れにWindows95が発売され、パソコンが一気に市民権を獲得し、パソコンを使うクリスチャンの数も飛躍的に増えたのでした。この頃、「パソコンを買おうと思うのだけれど」という問い合わせが毎日のようにありました。

セミナーの開催

でも、パソコンは、買ってスイッチを入れれば誰にでも使える「魔法の箱」ではありません。だから、パ

ソコンを買った人が使いこなせるようになるために、指導・教育が必要になるのは当然のことでした。私たちは、とにかく一人でも多くの人たちにパソコンを使いこなし、「J - ばいぶる 1st」をはじめとする聖書研究ソフトを活用していただくために、各地でパソコンセミナーを開きました。場所を機会を提供して下さるとか、興味のある人が何人かいる、と聞けば、北は仙台から南は沖縄まで、ほとんど手弁当で出かけて行って教えました。そんな中で、「J - ばいぶる」シリーズの発売元であるいのちのこば社さんが、1996年から継続的に恵みシャレーにおいてパソコンセミナーを開催して下さいました。初年度は、50人近くの方が集まりました。使えるパソコンは数台しかなく、テキストもありませんでした。次年度が30人、そして今年は15人のかたが参加されました。ほとんどのかたがノートパソコンを持参され、「使いこなそう!」J - ばいぶる 1st・聖書の達人(表紙写真)をテキストに、より実践的で内容の濃いセミナーとなりました。また、原語からの聖書研究を目指す方々には、開発者である能城師が直々に「J - ばいぶる 2nd・3rd」の使い方を伝授しました。

セミナーの参加者が年々減ってきた原因は、パソコン熱が冷めてきた、というよりも、すでにパソコンを使って「J - ばいぶる」シリーズや「聖書の達人」を使いこなせるかたが、多くなってきたことにある、と分析しています。となれば、私たちの進めてきたパソコン普及活動も、この辺で一段落した、と言えます。

マニュアルを使おう!

普及活動は一段落したと言っても、ソフトの活用という点ではまだまだ不十分と言わねばなりません。今回のセミナーでも、マニュアルやヘルプがいかに活用されていないか、ということを感じました。「J - ばいぶる」シリーズを買ったけれど、どう使ったらよいか分からない、と嘆いておられるかたも多いのではないのでしょうか。手前味噌で申し訳ありませんが、是非

小著「使いこなそう!...」を、一頁づつ丹念に実行してみてください。必ずどなたでも使えるようになるはず。また、「J - ばいぶる 2nd・3rd」をお持ちのかたは、能城師の力作ヘルプをしっかりと読んでみてください。面倒なようですが、あなたのパソコンが生き生きと稼働し始めることでしょう。

堀川 寛





「J-ばいぶる」改良道標 '98

- 「JB2 - 32ビット版」 その1 - 能城一郎
 コンピュータを使わなければ出来ない聖書研究とは
 いったい何であろうか？ JB2nd, 3rd開発をしながら
 いつも自問自答すると共に、参考になる文献探しをし
 なければなりません。今回は、特に重要な3つ
 の文献を紹介します。



これらの文献との出会いにより「JB2 - 32ビット版」の開発が本年6月を目標に、現在進行中です。

まず、初めは でした。将来「コンピュータによる聖書研究」の歴史が書かれるならば、この本は絶対に見落とすことの出来ない本となるでしょう。有益な内容で満ちています。

その中に「大貫隆 + 青野太潮 対談 聖書研究の現在」があります。以下その中の抜粋です[註： の72-74頁。下線は、筆者。・・・は中略]

大貫 最後にひとつつけ加えるとすれば、日本の、あるいは世界の新約聖書学の領域で、いわゆる電子メディアがどのように使われはじめていくかという問題にふれておきたいと思います。・・・やはり電子メディアは使われはじめています。今後無視できない研究主題になるだろうと思います。私ども日本の聖書学者の団体に「日本聖書学研究所」というのがあって百人ほどのメンバーを擁しています。この団体が、ある財団の助成金を更けて、かなりグレードの高いコンピュータを入れ、ソフトもずいぶんそろえています。

・・・例えば、ドイツのミュンスターにK・アールントが主宰する新約聖書の本文研究の有名な研究所があり、コンピュータを駆使してコンコルダンスを作ったのははじめているような試みを行っていて、すでに相当のデータが蓄積されているはずなのですが、それと通信できたらというわけです。・・・

現在のコンピュータの能力では単語のレベルでなにかを検索してある情報を出させることはできる、しかしテキストのレベルで、あるいは文脈のレベルで何かを調べようというのは非常にむずかしいんです。・・・しかし、私は、私自身の問題意識からしても、単語のレベルを超えた、少なくとも文のレベル、できればテキストのレベルでいろいろ調べたいことが多いんです。たとえば動詞の時制の問題です。・・・しかし、コン

ピュータの事情がよくわかってる人に相談すると、素材のインプットの仕方からいっても、とてもそれはできないんだ、といひます。大変な労力を費やして、事前作業を行って、素材に加工を施して、それからでない機械は働いてくれない、そこがひとつの限界だと言われて、少々がっかりしているところです。

これには、深い感銘と同時に、プログラマーとして大きなチャレンジの火を燃やされました。

JBの開発を始めた1994年に の論文が世に出ました。そこには、何のソフト、あるいは、コンコルダンスを使用したのかは記されていませんが、以下のように記されていました。

さて、以上の点をあらかじめおさえたうえで、ヨハネ福音書テキストにおける動詞各時制形使用状況の具体的な考察を行なってみよう(ここでの分析は、ヨハネ福音書の前半部第1章から第12章までに限定し、相や人称に関してはさしあたり考察しない)。

まず、筆者が私的に数え上げた限りでは、第12章までの動詞の全使用数は2,291であり、そのうち、現在形976(43%)、アオリスト形846(37%)、未完了過去形202(9%)、完了形163(7%)、未来形81(4%)、過去完了形23(1%)である(表1参照)。従って、「完了(stative)アスペクトの動詞形(すなわち『アオリスト形』)は、著者や話者が他のアスペクトの動詞形を用いる理由が特にないときに用いられる」(21)ところから、「福音書の諸部分や他のギリシア語物語(narrative)文学においては、物語(narrative)の基礎は一連のアオリスト形動詞によつて・・・



最後は、現在、32ビット版のアドバイザーをして下さっている中村和夫先生の論文です。この論文に出会った時の驚きを決して忘れることは出来ません。今

から26年前、パソコンという名もない時に、すでにその時代の到来を予言するかのような論文が日本人の手でギリシャ語タイプライターを使い書かれていたのです。この時、私は17才で日立の「マイクロコンピュータ」(紙テープでプログラミングする代物でした)言語を勉強中でした。今回は、この中村和夫先生のその後の研究を紹介しながら、JB2 - 32ビット版が何を指すのかをお知らせ致します。

参考文献

- 『哲学 12』 1991 秋号 「特集 = 電子聖書」 哲学書房
- 佐々木啓「ヨハネ福音書の時制(称)論の試み」 新約学
- 研究 1994 年 第22号 日本新約学会 中村和夫「ギリ
- シャ語構文の図解分析 - ギリシャ語原典の文法理解のための一試案 - 」 聖書翻訳研究 1972 年 第5号 日本聖書協会

INTERNET 未来予想図

gospeljapan ウェブマスター 宮崎光世

ウェブって何が凄かったんだっけ？

みなさんは Yahoo! JAPAN(<http://www.yahoo.co.jp>)と、goo(<http://www.goo.ne.jp>)の違いをご存知ですか？

Yahoo! は人が作っていて goo はロボットというプログラムが作っている。

goo は全文検索エンジンであり、数千万のページをカバーしており、Yahoo! ではすべてのページから検索することができない。

Yahoo! は人間が作っているので選択された情報を見ることができる。

といったところでしょうか。goo、infoseek、infonavigator といったロボット型全文検索エンジンの技術競争には凄いものがあります。一方、Yahoo! JAPAN をはじめとするディレクトリサービスにおいて、あまり「技術」が語られることはありません。人が登録するディレクトリサービスは過去のものとなるだろう、と考えている人も多いのではないのでしょうか。しかし気を付けたいことは、技術がすべてではなく、また、人か、コンピュータか、ということが両者の違いでは無い、ということです。

Yahoo! がしているのは情報の「デザイン」です。それはコンピュータを、単なる道具ではなく、人間の知性を増幅させるしくみとして、その理想を追求してきた情報工学の流れの中に位置づけることができます。(翻って、ロボットは情報の「処理」をしています。もちろん、「処理」の中にもデザインはあります。)ウェブの最大の利点はハイパーリンク構造にあります。ハイパーリンクは、人間の思考プロセスをビジュアルに再現します。ハイパーリンクによって、断片的な情報の山がひとつの巨大な脳になる。世界中に散在する情報の断片を結び合わせ、カオスから脳を生成させることができるのです。(ハイパーリンク構造はコンピュータができる以前からある考え方ですし、技術的にも、たとえば国産OS「TRON」ではずっと以前から実現されてますよね。)

学生時代の友人が噂話しているとします。

- A「そういえば、あいつ、どうしてるかな」
 B「ああ、宮崎ね。あいつ就職したらいいよ。会社に」
 A「それってどんな会社？」
 B「ああ、パソコン会社だよ。」
 A「あいつも好きだったからねえ。そういやその会社最近なんか新製品だしてなかったっけ。」
 B「出してる出してる、スルメみたいに薄いノートパソコンだよ」

A「なんか、スルメが食いたくなってきたな。」
 B「スルメっていえば君、イカきらいなんじゃないんだっけ。」

A「イカはきらいだけどスルメは大丈夫なの。イカにはいやな思い出があってね。」

B「ふーん、どんな思い出？」

A「あれは小学3年の時、となりのミヨちゃんが・・・」人間の会話って、こんなかんじですよ。取り留めがない。だけど、またあったときにミヨちゃんの話を変えて聞く必要はありません。それは人間の脳が、そういう考え方をするからです。「連想」が「ハイパーリンク」しているのです。連想が続く限り、話題は尽きませんね。(礼拝メッセージでもそんな時がアリマス)

あなたの聖書をウェブに。

まあ、スルメをリンクするかどうかは別の問題として、とにかく、連想が自然に続いていくととてもすんなりと人間の脳にインプットできます。。逆に言うと、ものごとを理解するときにはため込んでいて、位置づけが不明だった知識、経験に次々にリンクが張られていくのではないのでしょうか。

たとえば、人に自分がキリストに救われた経験を話すとき、さまざまな経験や恵みが頭に浮かんできます。しかし、それを全部しゃべってしまっただけは相手の脳で、自分が理解しているように再構成するのはとても無理なので、手短かにまとめます。しかし、ウェブなら、それをそのまま表現できるのです。それがウェブの強みです。そしてマルチメディアなら匂いに、音に、光景にさえ、リンクをはることができます。

線をひいて真っ赤になった聖書はその人の財産であるといえます。」ばいぶるで聖書研究やデポジションのノートをつけることはその作業にとっても似ています。聖書に線を引き、注釈をつける作業をパソコンで行うことにより、ただ、その効率が飛躍的に向上するのです。で、次のブレークスルーはそれをウェブに出力できればなあ、ということです(期待!!)。そのことによってより広範囲に「あなたの聖書」を誰かと共有することができるのです。コワイですね～。間違ったものも出回るでしょう。しかしゲーテンベルクが聖書を印刷し、学の無い民衆が直接読むことができるようになったときも同じ懸念があったことも忘れてはいけません。枠組み、ルール、規制も大切です。「自分の聖書」をウェブに置く、ということは、それが批判の対象にもなるということなのです。

ところで、さっきの「スルメ」は無駄な情報でしょうか。「ネット上には無駄な情報が氾濫している」といわれるのも、まだまだ「無駄な情報」とリンクが足りないから、ではないのでしょうか。

kosei@gospeljapan.com • <http://www.gospeljapan.com>

電腦最前線

- 秋葉原のウラ事情 その六 -

津田 仁 (TMC)

インターネット半可通をめざして

ドメイン名という言葉をお聞きになったことがあるかと思います。ASAHI ネットであれば asahi-net.or.jp、TMC なら tmc-japan.co.jp、ゴスペルジャパンなら gospeljapan.com これらをドメイン名と呼びます。さて今度メールを送信するとき相手のメールアドレスをちょっと確認してみてください。堀川先生なら horikawa@ma1.seikyone.jp というアドレスです。世界中どこから送ってもほぼ確実に届きます。何気なく日常わたしたちはこのように便利なメールを使っているわけですがよく考えてみると届くのが不思議なくらいです。例えばモスクワにいる人がこのアドレスへメール送信をしてなぜ届くのでしょうか？確かにそれぞれの国や地域ではインターネットアドレスを管理している組織がありドメイン名が重複しないように登録管理を行っているのですがインターネット上を行き来する気の遠くなるような数のメールを上記の簡単なアドレスを元にするだけでどのようにさばいているのでしょうか？そしてそれは誰が責任を持って送信をしているのでしょうか？DNS というシステムがそれを行います。正式には(Domain Name System)といいます。

インターネット上では無数のコンピュータが接続されています。メールを送信するというはその無数のコンピュータのうち特定のコンピュータにメールを送信するという事です。堀川先生の例で言えば ma1.seikyone.jp という名前のコンピュータにメールを送るということです。それではどのようにして無数のコンピュータが互いに互いを識別することができるのでしょうか。番号をつけます。インターネットに直接つながっているコンピュータにはすべてこの番号がついています。さきほどインターネットを管理している組織が国や地域にあると書きましたがこの番号を管理していると言った方がわかりやすいと思います。番号というと今風ではありませんのでアドレスと言いましょ。IP アドレスといいます。IP は Internet Protocol の略です。IP アドレスといいます。数字の羅列です。128.169.153.221 などと書きます。ピリオドで区切られた3桁の数字は最大 999 までではなく 255 まで

です。インターネットにつながっているコンピュータでこの数字が重複することはありえません。実はありえることあるのですが混乱するといけないので今は「ありえません」と書きます。ありえません。番号、じゃなかったアドレスはひとつのコンピュータに対して一つです。インターネット上のやり取りはすべてこのアドレスに対して行われます。相手の IP アドレスへメールは届くのです。

さて128.169.153.224のコンピュータのホームページを見るときは、http://128.169.153.224 と書きます。一人一人がどのホームページが何番のアドレスであるかをメモしておけばいいのです。128.169.153.224のIPアドレスを持つコンピュータ上の人にメールを送る場合は myname@[128.169.153.224] と書いて送れば届くのです。しかしこれでは使えませんね。数字だけだとわけがわかりません。どの国のどのような組織なのかがまったくわかりません。末尾が jp なら日本、il ならイスラエル、tw は台湾、de はドイツ。分かりやすいです。末尾から2番目の区切りが co や com なら会社組織、gov なら政府組織、ac なら学校関係。分かりやすいです。先ほどのIPアドレスはコンピュータ名に1対1で対応しています。インターネット上のある特定のコンピュータ名のアドレス番号が何番であるかを交換して互いに通信をしているのです。

ドメイン名の最後に jp,il,uk,tw などがありますがこれらが国名であることは前述いたしました。では再度堀川先生のメールアドレスを参考にドメインについてもう少し触れていきたいと思います。ma1.seikyone.jp をドメイン名といいます。ドメイン名はそれぞれピリオドで区切られています。後ろのほうから解釈していきます。この場合は jp です。jp は japan の略です。その前は ne。これはネットワークを運営している組織であるという略称です。末尾から3番目の区切り、seikyone が組織名です。この位置に大学名、機関名、会社名などが入ります。その前の ma1 がメールサーバーコンピュータの名前だと思えます。horikawa@ma1.seikyone.jp は「日本の」「ネットワーク運営組織の」「せいぎょうの」「ma1 という名のコンピュータ名の」「堀川先生というユーザー」という意味です。

ma1.seikyone.jp というコンピュータ名のIPアドレスは 202.211.152.220 になっているようです。horikawa@[202.211.152.220] と書くのがコンピュータに優しい書き方であるのですが繰り返しますが horikawa@ma1.seikyone.jp と意味のある書き方をしたほうがずっとわかりやすいし便利。さてここでお願ひがあります。「教会とコンピュータ」編集に心血

を注いでられました堀川先生にこのアドレスで励ましのメールをさしあげてください。

世界中のどのコンピュータにもIPアドレスと名前がつけられています。私たちが意識するのは名前のほうだけでよいのです。新しいコンピュータの名前をつけたり廃棄処分にしたりする作業は世界中で毎日どこかで行われているはずなのに日本からその新しいコンピュータのユーザーへメールを送れば届いてしまうのはなぜなのでしょう。世界中のコンピュータの名前を登録してある全能の超巨大なデータベースシステムがあるのでしょうか？これを実現しているのが最初に書いたDNS (Domain Name System) なのです。

DNS によってインターネットは今日のように発展したといってもよいのではないのでしょうか。DNS は1984年にその仕様が決定された分散型データベースです。IPアドレスに変換するためにma1.seikyuu.ne.jp を後ろから解釈していくのですがそれぞれのピリオドの区切り毎に管理されたデータベースが存在します。

わたしはインターネットの専門家ではありません。秋葉原に巣食う現場の労働者でするので間違っているところがあるかもしれません。どなたかお気づきになりました点などありましたらこっそりメールください。なお文中使いました128.169.153.224のIPアドレスは架空のものです。次回は、DNS全体のイメージにもうすこし詳しく触れてから実際に現場でPCにDNSをどのように組み込んでいくかについて書いてみたいと思います。 津田 仁 tsuda@tmc-japan.co.jp

パソコン教会活用術

- 新作ソフト情報 - 松村 識

A Walk in the Footsteps of Jesus

(Persons Technology, Inc)

名前の通りイエスの生涯を辿る Hybrid (Win&Mac 両用) のマルチメディアタイトルです。“誕生と少年時代”、“初期伝道活動”、“教えと奇蹟”、“後期伝道活動”、“最後の週”、“受難と復活”の6つのパートからできており、ツアーのメイン画面(図1)から地図の表示(図2)そして、その場所へジャンプします(図3 パプテスマのヨハネの洗礼場所)。写真はQTVR (360度パノラマムービー) になっており、マウスのクリックで右へ左へ、上へ下へ、拡大したり縮小したりと臨場感たっぷり?! に観ることができます。またBGMに乗って解説が流れ、書斎にいながら聖地ツアーが楽しめます。

値段は\$29。これで聖地旅行に行った気になれるかなれないか？

次のURLで詳しい情報と注文ができます。

<http://www.parsonstech.com/software/footsteps.html>





MAC NEWS

本田 勝宏

家庭内 LAN

Windows95 が発売になった時の売り文句の中の一つ、何だったか覚えていますか？ MAC NEWS なのにいきなり Windows の話しか？ ご不満はごもっともですが、ちょっと待って下さい。で、覚えていますか？「プラグアンドプレイ」でした。差し込めば使える、と訳すのでしょうか。ともあれ、以前の Windows でしたら、いちいちカードを挿して、ドライブを認識させて、と面倒だったのが簡単になった、というものでした。ところが、MAC は違います。以前から「プラグアンドプレイ」でした。それは、作られた時から、ネットワークを意識していたのです。SCSI 機器などをつなぐことでも簡単にできます。

そこで今回は、LAN の組み方についてです。難しく考える必要はありません。二つ以上の MAC をつないでファイルやフォルダを共有することです。MAC にはずっと以前から標準で共有設定機能がついていますので、ケーブルでつないでデータのやりとりをすぐにも始められます。これを使わない手はありません。

ファイルメーカー聖書の最初の試作品ができた時、松村氏のパワーブックと私のパワーブックとをつないでデータをコピーしました。これなど、その場でプリンターケーブルでつないで簡単にやれてしまいました。もっともこの時は、ローカルトークでしたのでデータの転送速度が遅く、約2時間もかかってしまいました。

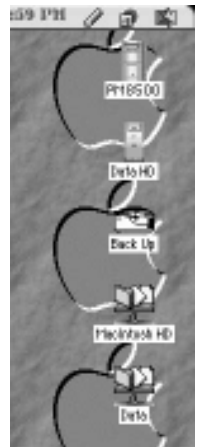
最近、私の妻も MAC の前に座るようになりました。なれない手つきでキーボードをたたいています。当然、一つの MAC を使うとなると、お互い遠慮しながらということになりますので、ここは一丁、パワーブックを手に入れて使おうということになり、古いパワーブックを手放し、新しいのを(と言っても中古ですが)手に入れました。これはもう、LAN を組むしかないでしょう、と思い立ち、ついでにインターネットもモデムではなく、ISDN にしました。そこで、LAN も Ethernet で組むことにしました。なぜなら、データの転送速度が、ローカルトークと呼ばれる LAN とは天と地ほどの違いがあります。ただ、ちょっとだけ値段が張るのが欠点ですが。

Ethernet を組むに当たってケーブルを買うことになったのですが、Ethernet のケーブルには二種類あるということを知りました。二つの MAC を直接つなぐためのケーブルと、ルーターというものを經由させてつなぐ場合とでは違う種類のものを使う、ということです。今回は、ISDN を導入することになりましたので、ルーター機能のついたターミナルアダプター (TA) を買うことになりました。

ローカルトークというのは、Phononet と呼ばれるものや、プリンターケーブルなどでつなぐことを言います。で、Ethernet というのは、10Base-T と呼ばれる専用のケーブルでつなぐものです。一番簡単なのは、プリンターケーブルでプリンターポートかモデムポートをつなぐ方法です。昔に比べ、10Base-T ケーブルも安くなった、と言われます。

そこで、どうやってつなぎ、どうやってファイルやフォルダを共有するのかと言いますと、・・・いや、今回は、使用感についてだけ、レポートすることにしましょう。

右の図を見て下さい。これがフォルダを共有しようとした時のディストトップです(下の図はつないでいる MAC のディストトップ)。フォルダの共有を設定しますと、つないでいる MAC の HD を自分のディストトップにマウントできます。こうなるとつないでいるもう一台の MAC をこちらで操作できるようになります。ローカルトークですと、速度が遅く、操作するにはちょっとストレスを感じ



ますが、Ethernet で

すと、実に快適です。以前、68030 マシンを使っていましたが、68030 マシンが自転車だとすると、今の環境で Ethernet を使うのはスポーツカーです(たとえが貧弱ですみません)。

最近のほとんどの MAC は標準で Ethernet ポートを装備しています。これからもう一台の MAC を買おうと思っている方、ぜひ、家庭内 LAN を組んでみて下さい。MAC のもう一つの扉が開き、新しい世界が開けますよ。



日本語訳聖書翻訳比較研究

能城一郎

「青二才」イザヤ 3:4-5 中沢洽樹訳を中心に

[中沢洽樹訳] 無政府状態(と女性に対する審判)

3:4 「わたしは**青二才**を彼らの長とし、悪童らに彼らを治めさせる」

3:5 民は互いに虐げ合い、同胞相はむ。青二才が年寄りに、若輩が先輩にたてつく。

中沢訳が登場したのは1968年、そのころ私は中学2年生でした。担任が社会科の先生であったのでホームルームでは「大学生のお兄さん達がどうしてヘルメット、マスク、ゲバ棒の出で立ちで学生運動しているのか」という話題がよく取り上げられました。テレビでは「最近の若者はけしからん。青二才が・・・」という言葉が多く聞かれました。

「青二才」という言葉の受止め方は、人様々でしょう。良い祖母と祖父、良き教師、また、良き友や先輩との出会いのお陰で、自然と老人、目上の人を敬う精神が染み付いてしまった私は、「青二才が」と言われても、反発よりむしろ自省の念が、まず心に浮び「青二才と呼べない為にはどうすれば良いのだろう」と思索してしまいがちなのですが・・・。

冒頭に紹介したのは、1990年の中沢訳です。表記に2つの特徴があります。第1は、イザヤ、もしくは、新改訳で主と太字ゴシックで表記される神が1人称をとる散文等に「」を用ること、第2は、重要な基調語・基調文にゴシック体を用いること、です(詳細は、の「緒言」を参照)

さて、この箇所の翻訳比較を見てみましょう。

[口語訳] 3:4 わたしはわらべを立てて彼らの君とし、みどりに彼らを治めさせる。

3:5 民は互に相しえたげ、人はおのおのその隣をしえたげ、若い者は老いたる者にむかって高ぶり、卑しい者は尊い者にむかって高ぶる。

[新改訳] 3:4 わたしは、若い者たちを彼らのつかさとし、気まくれ者に彼らを治めさせる。

3:5 民はおのおの、仲間同士で相しいたげ、若い者は年寄りに向かって高ぶり、身分の低い者は高貴な者に向かって高ぶる。

[新共同訳] エルサレムとユダの審判

3:4 わたしは若者を支配者にした。気ままな者が国を治めるようになる。

3:5 民は隣人どうしで虐げ合う。若者は長老に、卑しい者は尊い者に無礼を働く。

[関根清三訳] 指導者たちの混乱

3:4 わたしは若者たちを彼らの司とし、無頼漢たちが彼らを治める。

3:5 民は互いに仲間同士で虐げあい、若者が年寄りにむかって、卑賤な者が高貴な者に向かって、高ぶる。

「わらべ」「若い者」「若者」と訳される中で「青二才」は、強烈な示唆の光を放っています。

前号で紹介した「見出し」を新共同訳、関根清三訳と比較すると中沢訳「無政府状態」がユニークであることが分ります[註:(と女性に対する審判)は、1968年の見出しにはありますが、1990年のものでは記されていません]。関根清三訳の見出し「指導者たちの混乱」と少し似ていますが、旧約聖書翻訳委員会の見出しは、単元の訳語から採用しますので、3:12の「あなたの指導者たちは迷わず者であり、」から「指導者たち」を採り、訳者が読者の便宜のために解説として「・・・の混乱」と見出しを付けています。

この「無政府状態」の見出しは、翻訳者、中沢先生の最初の翻訳(68年)から新訳(90年)に至る首尾一貫した、世に対するメッセージであったと、私は捉えています。また、1990年版では「ゴシック体」を用いる出版をされ、「無政府状態」「青二才」を社会へのメッセージとして保持されて来られたのではないのでしょうか。現代の預言者を自覚するキリスト者が、中沢訳を読むならば、そこには、計り知れないメッセージの宝庫が大きくその門を開けて待っていてくれます。

この中沢訳で、ユニークな用語があります。それは、40:3に使われる凸凹です。

すべての谷は高く、すべての山と丘は低く、凸凹の地は平らに、けわしい峰は窪地になる。

その他、中沢訳についての詳細は をご参考下さい。

また、中沢先生の選集が近々発刊されますので、私もそれを心待ちにしています。

以下、次回から最終回までの、掲載予定です。34号、佐藤研「ルカ福音書」35号、青野太潮「パウロ書簡」36号「現代の解釈学と翻訳」。



参考文献(注解書)

世界の名著 12巻 『聖書』 前田護郎・中沢洽樹 中央公論社 昭和43年(1968年) 中沢洽樹「新訳と略註 イザヤ書」新教出版社 1990年 関根清三「四「預言書について(1)-イザヤ書、エミヤ書-中沢洽樹『イザヤ書 新訳と略註』と比較しつつ」 p.188-194 「日本の神学」30 神学年報 1991年 日本基督教学会編特集「聖書 新共同訳」- 旧約聖書 -

0 傳 揚 報 載

織田昭ギリシャ語辞典電子化

現在、全ての部分の構成が終了し、試作品作りに入りました。6月完成を目標にしています。版の配布を検討していますので、CBECのHPを時折チェックして下さい。

JB2 ユーザーへ、読書のおすすめ

山本巍・宮本久雄・大貫隆共著「聖書の言語を超えて」東京大学出版会 1997年9月5日初版

内容：

第1章 聖書の言語宇宙 - ソクラテスとイエス

第2章 イエスの譬え話 - 「彼方」から「彼方」への呼びかけ

第3章 ないないづくしの神 - 古代における三つの否定神学以下、「はしがき」の抜粋です。



今日は情報の時代と呼ばれ、役に立つ情報がコンピュータ化、インターネット化されて、取引交換材料となって世界中を流通してゆきます。そうした情報思想を支える言語は、情報伝達言語です。そして情報化とは、他者やその出来事も含め、いっさいを記号や映像・イメージなどに代替する人工的な言語化であることに注意しましょう。どんなに素晴らしい技術を駆使

して自然に似せた映像をつくったところで、それは人工の世界にほかならないのです。けれども、こうした人工の言語の圧倒的支配が情報世界を特徴づけるとすれば、それはどのような・・・

JB3 ユーザーへ、読書のおすすめ

「旧約聖書釈義研究」第8号 1998年 旧約釈義研究会 <旧約における「霊」(1)>



JB3の「使い方」の「研究コース」に紹介してある研究誌です。冒頭の論文、津村俊夫「サムエル記における『主からの悪い霊』」では、MACのacCordanceを使用していることが明記されています(5頁16行目)。JB3を使い同じ研究が出来るかお試し下さい。ちなみ

に、JB3「使い方」の「研究コース」の「. 文法解析データ「WTM」の解説」を読めば、JB3のコンコルダンスの精度がどのようなものかご理解頂けると思います。

郵便番号Converter

新郵便番号への変換でお困りのあなたへ。郵便番号Converterがお役に立ちます。ファイルメーカーPro3.0/4.0上で新郵便番号変換ができます(Mac用)。

入手方法。ミニストーリーテスのホームページからダウンロード(<http://www.jade.dti.ne.jp/~sama/titus>)して代金を支払う(500円)。直接フロッピーを注文する(1,000円)。フロッピーを注文の場合には、郵便振替でご送金ください。

(振替番号: 00230-8-23947、加入者名: ミニストーリーテス)

「聖書クイズ王決定戦」ソフトと本の販売
日本初の聖書クイズソフトとその本を販売します。値段はゲームソフト・本共に、**送料込み¥1,000**です。郵便振替にご希望の品と数をご記入の上、ご送金下さい。「教会とコンピューター」の読者の方に限り、両方併せて5本以上お買い求めいただいた場合、1本¥800にさせていただきます。口座番号は

CBEC プレス

01340-3-47350

です。お申し込みお待ちしております。

編集後記

私の祖父は、ホーリネス教団の中田監督の薫陶を受けた筋金入りの伝道者でしたが、若いときから聖書を原語で読もうと、努力した人でした。今でも、当時の学習メモや、単語帳が残っています。1975年に召天したのですが、機械好きでもありましたので、今生きていたら「J-ばいぐる」シリーズを大いに喜んで使っていたのではなからうか、と思います。きっと今頃天国で悔しがっていることでしょう。

編集者 堀川 寛 (三滝グリーンチャペル牧師)

住所 広島市西区三滝本町2-10-24

FAX 082-237-7766

horikawa@ma1.seikyuu.ne.jpです。よろしく。

購読料などの振り込みは、郵便振替口座

聖書コンピュータ研究同好会 00100-4-146775